

学びのデザインシート（授業前）

主体的・対話的で深い学びを実現する授業構想【国語科】

1. 対象 肢体不自由 中学部 自立グループ 7人（医療的ケアのない生徒）

2. 単元名 「 おみせやさんでくださいな。 」(全20時間)

3. 単元で育成を目指す資質・能力

知識及び技能	「くださいな。」や「どうぞ。」のせりふの意味や、それに対応するジェスチャーやサインが分かっている。
思考力, 判断力, 表現力等	教師の話しかけや読み聞かせのせりふに合わせて「くださいな。」や「どうぞ。」を表現するジェスチャーやサインをすることができる。
学びに向かう力, 人間性等	読み聞かせに合わせて提示された具体物が欲しいことを、ジェスチャーやサインで伝えようとするすることができる。

4. 本時の目標

※「5」を単元で作成する場合は省略可能です。

5. 授業展開【 本時 ・ **単元** 】 ※本時または単元いずれかに○を付けてください。

解決したい課題や問い

- ・絵本に出てきたパンやケーキなどの中から、目の前に提示された具体物がほしい！
- ・「くださいな。」「どうぞ。」で伝えたい！

考えるための材料

- ・集団の学習で読み聞かせの絵本に注目できるように、もともとの絵本を拡大コピーし、拡大絵本を作成する。
- ・やりとりの際に自分で操作できるように、絵本に登場する具体物を用意する。
- ・モデルとなる教師や友達のやりとりが見えるような教室配置にする。
- ・モデルとなる教師や友達のやりとりを見ることができるよう、一人ずつ順番に繰り返し取り組むことで、言葉やサインの意味付けを積み重ねることができるようにする。
- ・「くださいな。」「どうぞ。」に応じたジェスチャーやサイン、行動ができたときには称賛する。

想定される活動

〈やりとりの場面〉

- ・メインTが読む拡大絵本の読み聞かせに注目する。
- ・「くださいな。」とサインやジェスチャーで伝えられると、メインTから具体物を受け取ることができる。
- ・読み聞かせに出てくるせりふに応じて、メインTと「くださいな。」「どうぞ。」のやりとりをして具体物を受け取っている友達を見て、自分も同じように行動すれば具体物を受け取れると分かり、手を合わせてサインをして伝えようしたり、サブTの促しや誘導を受け入れてサインをしようしたりする。
- ・教師の「くださいな。」というせりふに合わせてジェスチャーをし、具体物のやり取りをすることに繰り返し取り組むことで、この場面ではこのようなやり取りをすれば具体物を受け取ることができると分かり、「くださいな。」や「どうぞ。」サインやジェスチャーで伝えようとするが増える。
- ・自分から「くださいな。」を伝えようしたり、「くださいな。」に応じて「どうぞ。」と手渡したりできたときに称賛されることで、できた実感できる。もっとやりとりをしたいと感じる。

対話と思考（対話を通じた協働的な問題解決のプロセス）

※設定する対話の方法

- ・生徒7名、メインT1名がやりとりの相手となり、サブT4名は生徒の立場でやりとりのモデルとなる。20～30分程度、大型絵本を用いてメインTが順番に生徒の前に行き、生徒はサブTの支援を受けながら、一緒に「くださいな。」「どうぞ。」の具体物を操作するやりとりをしていく。

※対話や思考のプロセス

- ・メインTのせりふに合わせて自分がジェスチャーやサインを出し、それに対してほしかった具体物をメインTから渡されることで、自分のジェスチャーやサインに意味があり、それが相手に「伝わった。」という実感につながる。

学習の成果（予想される生徒のあらわれ）

- ・せりふに合わせて教師が提示した具体物が欲しいときには、「くださいな。」とジェスチャーで伝えることができる。
- ・日常生活の中で、欲しいものがあるときに「くださいな。」とサインやジェスチャーで伝えようとしたり、誰かから「ください。」と言われたときに、手に持っている具体物を「どうぞ。」と手渡したりすることができる。